

エビネの育て方 (1)

露地栽培

木陰や建物の陰（夏に直射日光が当たらない所）などに植えます。植え土は、腐葉土を約3割まぜて耕しておきます。冬は、敷わらや囲いをして、冷たい風から守ります。

鉢栽培（図参照）

鉢 駄温鉢やプラスチック鉢、エビネ専用鉢を使います。

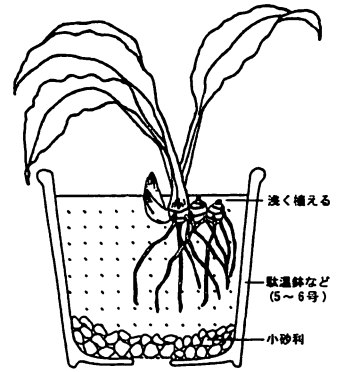
用土 排水、保水ともによい新しいものを用います。

（例）軽石 中粒：小粒＝4：6

（軽石の例：薩摩土、日向土、ほら土など）

植え付け時期 3月頃または花が終わった直後が適期ですが、真夏と真冬を除けば、いつでも可能です（3年に1度が目安）。

置き場所 1年を通じて、やや暗く感じる木陰程度の明るさで、強風の当たらない場所で管理します。地面からの泥はねがないように注意します。



鉢植えの仕方

水やり

露地植えでは、よほどの乾燥時にだけ与えます。

鉢植えでは、用土の表面が乾いたらたっぷり与えます。

肥料

親指大の有機質乾燥肥料を、5、6、9月に、5号鉢で3個置肥します。

病害虫の防除

アブラムシ……オルトラン乳剤（または水和剤）、トレボン乳剤などを交互に月1回散布します（3～6月）。

トクナガハモグリバエ…アブラムシ防除と同じ薬剤を月に1回散布します（9～11月）。

病気予防…サプロール乳剤やベンレート水和剤を月に1～2回散布します（5～10月）。

ウイルス予防……感染株を処分します。鉢、用土は新しいものを使い、はさみは、1株ごとに消毒します（ライターなどの炎による熱消毒）。ウイルスを媒介するアブラムシの防除につとめます。

種類と栽培上の注意点

注 意 点	種 類
栽培容易	エビネ、キエビネ、タカネ、ヒゼン、サツマ、ヒゴ、イシズチ
冬期保温する (0℃以上)	ニオイエビネ、キリシマエビネ、アマミエビネ
冬期保温する (5℃以上)	ツルラン、オナガエビネ、トクサラン、ヒロハノカラン
夏期涼しい所 で栽培する	サルメンエビネ、ナツエビネ、キンセイラン

エビネの育て方(2)

株分け

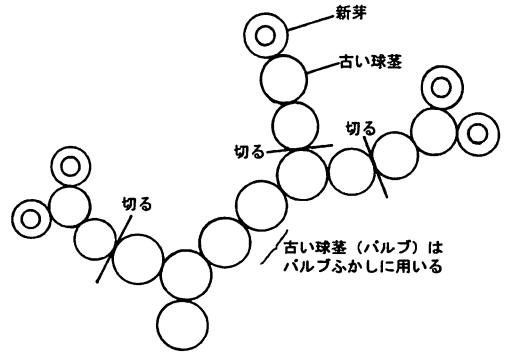
時期 花後または、6月下旬～7月上旬、9月中～10月中旬の植え替え時。

分け方 新しい芽のうしろに古い球茎を2球つけたものを1株として分けます。

バルブふかし

植え付け、植え替え時に得た古い球茎（バルブ）を用いて増殖する方法。

古い球茎を2球ごと（または1球）に切断し、水ゴケまたは、土に球茎の頭部が見える程度に浅く植えます。1～2ヶ月後に発芽、2～3年で開花がみられます。



株分けの仕方

実生

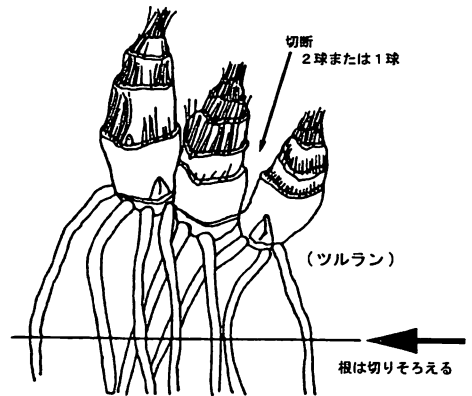
鉢まき法 親株の株元に種子をまき、苗を得る方法。

交配 開花 1～3 日目の花茎の下部についている花を用い、ずい柱先端から取った花粉塊を、母株の花のずい柱下面の粘液に付けます。

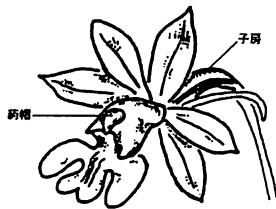
採種 10月中～下旬、果実が少し黄色味を帯びたころ採種します。

まき方 根がよく張って、生育のよい株のもとに、果実を割り、なかの種子をまきます。

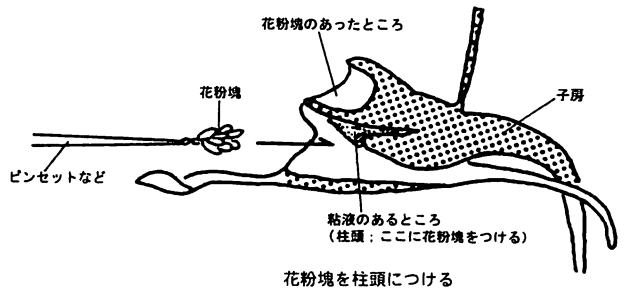
育苗 翌年初夏～翌々年にかけ、ぼつりぼつりと発芽します。葉が3～4枚、長さ4～5cmになったものを、順次大きな鉢に移し育苗します。用土は、親株と同じ種類の混合土で小豆粒大のもの。黒色ビニールポットに植えます。移植後、3～5年で開花します。



バルブふかしの要領



葯帽の先端を軽く押し上げ、中から花粉塊をとり出す



花粉塊を柱頭につける

交配の仕方